

洛星新闻

二月十五日、例年のごとく校
より二週間ほどはやめの第五回卒
業式が厳かに舉行された。

今回卒業の第五期生二三五名は、
三十一年四月、本校に入学以來、
無数の関門を通過数々の思い出を
抱いてこの洛星に別かれを告げた

鈴木 武夫

後輩諸君 陳腐な言葉ではあ
が高校生活に悔だけは残しな
な。あらゆるものにおいて十を
むなら十二、十三を望みなさい

河村
武和

高校時代に恋愛の一つもやってない親爺は子供に軽蔑されるものです。家庭が不和という事でひねくれた親爺もかり。

諸君達、近き将来か、遠き将来に息子のぬけがらに落ちぶれてしまつてです。そんな時若し頃の経験があるんです。子供達と友人の様な親爺……いいな。僕のあこがれです。

諸君、テレビなんか見なさんな。眠むりなさんな。自分だけの生活にひたりのきなさい。本を読みなさい。勉強しなさい。スポーツをしなさい。恋愛語りなさい。そつしたらすばらしい。自己満足

出すでもなかった。高二と高三の時は一番充実していた。クラブ活動も動を一生懸命し且つ勉強を真剣にやわりの映画には友達に連れていってもらった。しかし、中学時代は、空白になったような感じである。これはいへん残念なことだ。これから、一時一時を充実して送って行くという高一の終りの時の決心を一生持ち続けたい。

しかし又、それとは別に洛星から見る京都のよみ、のんびりとした人間にもなりたいたいと思つていて、では、洛星の益々の発展を期待して筆をおきます。

小池 曉彥

「進学について」
小池 曉彦

卒業という程勉強していないから「進学」という。つまりこれからは学問するつもり。在校生諸君と交わるわけではない。ただ「流星」という学園を離れるだけ。つまりきつても、やはり何か残る。感謝？ いいえ。わりきりかな。流星へは、確かに勉強しにきた。「流星」が高校を終えさせてくれるだけは、勉強した。だが、それだけとそれなら、何も、特に「流星」を離れるのに、「何」
少しでもそれに近づこうと努力していると思つた。しかし最近は何々も確実なプランをたて、得やすい理想を持つ傾向があるようだ。中にはプランをたてたこともせず、或いは全然気がかぬ人もいる。又非常に綿密に現実的プランであつて先の見えぬ人もいる。諸君はどうか？ 雨の日も風の日も登校し、又明日も登校と毎日同じ事をくり返し適当に日を過している人はいないと思つた。

現在流星は穏やかな、平和な学園そのものである。けつこつな事です。これは如才のない生徒等が先に確実な結果を予想し、それから、哀れにも落伍。
第三、グリークラブのトップチナードで、いつも馬鹿でかい声で唸っていたこと。（指揮者、若木康先生に、紙面をもつて詫言る。）
外に思ひ出はないか？ そりゃ山ほどあるにちがいないが、思ひ出せない。（高三になって少し勉強したせいかな？）
後輩諸君、学生は勉強することだ。（僕のごき生徒は、88 percent いないであつたが、残りの 1 percent に注否する。）
高三になって「もつと勉強しなさいよ」ってのになあ」こんな言葉が絶対！に言われぬように。

久保 吉牛

後輩諸君、ならびに諸先生、
第五回卒業生は、よく勉強し、よ
く遊んだ生徒であつた、といつ
まで心の底に留めておいて下さい。

西山堂

もない。ガムシヤに実行して
いく。少々失敗してもまた君達はテ
インエージャーである。この様
な気持で新しい流星の第二の誕生
を迎えてはどうか。

もう卒業か、僕は原稿を頼まれ
た時こう思った。よく叱られた中
一時代、学校生活が一面面白かつ
た中三時代そして試験に追いまわ
された高校時代をその他クリスマス

吉田
進

追記、お父様、お母様方、洛星の小さき親爺方に絶対的な信頼をおよせなさい。親爺方にまかせなさい。親爺達が失敗してもくじける様な人々ではない事をよく心の中にいい聞かせておきなさい。

熊谷 純三

は非常に尊いと思う。諸君も、卒業されるときには、必ず「何か」を感じたものになっておいて欲しい。最後に今の私の信念となっている「ジャン・クリストフ」の中の言葉を書いてお別れしたい。
 “als ich kann!”（私にできるだけの事を…）

第二、運動会。中学の時は、五位、三位、一位。高校に入つて二年続けて一位、これはマラソンの成績。（勉学に於てこのような成績であったなら、母は喜びのあまり目をまわしてしまつてであらう）高三の今年も是非一位をと、運動会の前十日間、夜、練習に励んだ。

いふまでも古い思い出にひたつてはいけなかつた。僕は常に前進せねばならぬ。こゝ思つて僕の胸は新しい希望で一杯になる。

しかし六年間の学校生活はきつと僕の一生の思い出に残るに違ひない。それを後になってよく

と中津のまの足利は、川井君に「とも、僕のものに越えてくれるのは、少し。これは、何故か」と尋ねて見ると、たまたま偶然「さう」して、そして只、星君が本当に前進しているのにちがいない。クラブ活動をよくよつとというのが、卒業に当り熱心にやるでもなく、勉強に精をこめた僕の単純な願いなのです。

完成した洛星会館の全景

アラル神父さん本国へ

秋ごろ帰校か？



補導部室でのマリ―神父

四月二十四日補導部長アラール神父はカナダに帰国されることになった。帰国理由は、修道院の騒動にたがってのことになっているチャペルの資金集めであるそうだが、現在建設中の宗教研究室も神父が寄付金をあつめて建てられるものであること、こんどの資金集めはむづかしいのである。

神父は一九五五年来日、五九九年に補導部長に就任され、現在に至っているわけであるが、その間中一の英語を担当され、夏には必ず生徒をつれて泳ぎに、旅行に出かけられて生徒とのなじみも大変深々、よく理解者として補導部長を務めてくれたのでその帰国はなごの惜しいものである。

なお宗教研究クラブ主催により三月十五日、神父の送別会が開かれる。会費は百円。

で神学及び社会科学を研究され

どうぞと

いつものごとく廊下を、心持
背をまるめて歩き回っておられ
のをつかまえて、「新聞部です
れど、インタビュを……」と
りだすと、即座に腕時計をにら
れて、「四時三十分には補導室ま
どろぞ」とおられた。三十分か
きりに補導室へ飛び込むと、向
側のドアから神父もはいてこ
れた。グッドタイミングである
補導室へ顔を出す度にアラ
神父から「京都時間、京都時間
と言われて恐縮していた記者な
で、几帳面な人と言ったのが第一
象。」

シカゴの De Paul 大学
アメリカ文学を専攻し、その
Catholic University

やりと笑われる
人なつっこそうな人である。
イリノイ州のハイスクールで五
年間、英語とラテン語と社会科学
を教えてこれたので、この
学校の生徒もアメリカのハイスク
ールの生徒も全然がわないと言
われる。そして皮肉られてし
まった——Students talk
Japanese too fast and
English too slow.

く全快されて

文学修士位をおとすになった。
 始業式の時、壇上から響いて、
 皆を驚かしたあの深い日本語は、
 なんと二年間京都で、独学、そし
 て二年間東京の Franciscan
 Language School で勉強が
 れたといふには二度のびっくり。
 趣味は、と聞
 く。と即座にスリ
 トピング。ジェ
 スター。たっぷ
 りである。誰し
 も朝起きるのは
 つらいものらし
 い。それからし
 ばらく考えて、
 社会科学のトピ
 ックスを読むこ
 と、とまじめに

10年間の志願者と合格者

年 度	志願者	合格者	合格率
1952	162人	108人	1.5倍
1953	160人	130人	1.2倍
1954	254人	130人	2.0倍
1955	307人	130人	2.4倍
1956	298人	135人	2.2倍
1957	295人	142人	2.1倍
1958	288人	144人	2.0倍
1959	441人	144人	3.1倍
1960	750人	144人	5.2倍
1961	480人	144人	3.3倍
1962	415人	約140人	3.0倍

一月土日に始まった第十一期
失学願書の受付も注目のうちに
二月三日締切られた。初日は八十
人上戸であった。その後、二
日、三日と減り、一日の平均は十
五ないし二十人という線に安ど
まっていたが、締切日には遂に四
〇〇人突破し、ますますという
うである。つ

ばかりである
さて今年の
いう結果であ
いて考えて見
ます表を見
ます志願者は人
うである。つ

「敬遠されたのか？」

中学校入学願書受付

入試倍率は三倍弱とあった。この数字について見よう。
 見ればわかるように人口に比例しているようである。これなら洛星は進歩も後退もない学校とも考えられ、又別の方から考へると、被選び過ぎていると、彼でそれ以上受験させないというふいふところもあるようで、喜んでいいのかわか判断に窮する。
 入志試験者へのアンケートはなかなか興味深いもの示してい、本校志願理由を聞いてみると、この学校は勉強がよく来るとか進学率がよいとか云うのが圧倒的であったのに対して生の行動、礼儀が立派だから、雰囲気がいからとかいうのは二のこの学校は勉強がよくて、できたといふではなくして、のよに言てはいって来る生が勉強がよくて来る者はかりだたら、結果としてそうなると言つてを忘れてゐるのだろうか。大この学校は誤解されているようある。この学校を志願するときミッションスクールとしての格、カトリック等を考へてゐるがが少ないとは悲しむべきではなかつたか。
 又授業料その他毎月の納金は

現在、京都で一、二位を争う額である。これはしかたがないといえる。しかしながら、なぜな学校の経費規模が小さいからである。しかしこれでは入志願者がよいに限定されることになる。

色々と多くの問題が課されているが、また充分に時間はある。世間の誤解をとく努力をもしなければならぬし、誰もが責任を持たなければならない。

中学入学願書受付
合計415名

日	願書受付数
17日	80
18日	40
19日	28
20日	12
21日	10
22日	22
23日	22
24日	15
25日	22
26日	12

どうぞよろしく

神父の経歴
一九二六年一月生
六人兄弟の御長男で智
両親ともデトロイトに
御健在のこと。出
身地は同じ合衆国
シガン州デトロイ
市。

と日本に帰ってこられ

ペペンは胃の調子が悪く、日本へ来たときから医師に診られた。その原因は、すべて韓国を勧められ、月二日、午前七時三十分、『第一』で帰国された。韓国に先だち放浪後視聴室まで日の陰の親切を感謝しおられた。それに

港から満洲へ渡ったことソリーニの妻があった。私の家にも将校と兵生に知られたが一晩泊った。家中をあけてのが馳走、歓待。鉄砲に怒る恐るさわからせてもらったり、将校の腰の日本刀の冷たい光に何故か血の躍るような思いをしたことを覚えている。満州へ渡ってから幾度もこの軍隊から便りをも

中学二年生らしい緒戦の戦争が始まった。何かといえげなく「ちょうたん」が有頂天なものを



My Teenager

一九三七年に、私は小学校の四年級にいた。それから四十七年までが私の十代である。この十代にかぎらず、過去を追憶するというのは、どうも得手でない。またまた先のきの方へ気が多過ぎたにはたしてゐる私なのである。それに何ゆゑも追想して懷むほどのものが私にあつたわけでもない。「私の十代」という編集子の注文を私流ひねつて、私の「十代」の時を少しゆめかえることで資をもちうと思ふ。

× ×

三十七年という年に丁度日華事變が始まつた。四一年には太平洋戦争勃発。こんな年々に、私の十代はほとんど戦争に覆られていたといふべき。事実、今こうして想いをたぐつてみても、何かつのみにて戦争に關係した想ひ出ばかりである。

小学三、四年生のころ、沢山やワルシチョフを誰

らた。

私がはじめて他人うものを書いたのは、慰問文だった。このころが支那から来るようい間もなく曹渭橋事件れが日華事變になつち、私の目覚め通り、戦勝を祈願した。そとより、西園小中学交換生をしたこと夜の十一時頃まで睡りながら仕上げた絵作となつてドイツに送られた時は、ちょっと得意であつた。

中学入學の秋には日独伊三國同盟締結で、今度はいよいよ夜の町中をねり歩いた今的小中学生の間

戦争中はつらかった！

手紙といふこと、中学生の私達には、特に軍関係の學校を志望する者が多く、視力の足らぬ私は次第に自身のせまい思いをしたことであつた。勉強も体力も一切が「お國のため」であるとき、日々につづる教科書、エンピツ、ノートなどの入手の困難、授業時間の細少も「戦地の兵隊さんな思へ」で誰さ平氣も疑問もない時代であつた。

中学生の一審手つとひ早い聲行は、戦地の將兵に慰問文をかきこくことであり、何がしかの小遣い眼をこす

か、その掛

英雄山本五十六元帥が郷土出身板を踏んで運んだこと、こうしたもので私の中学時代はこめられてゐる。中学五年、私達の勤勞奉仕の場所は、遠く名古屋に移され、仕事は飛行機の生産に變つた。あの神風特攻機の出立だつた。作り上げた飛行機が、隣接の簡単な飛行場から次々と飛びだつて、紺青の空に消えてゆくのをみるのが、その頃の私達の少年らしい喜びだつた。授業は全くなく、ここに英語は敵性語として一年前から中学校正科授業から外されてゐるといふありさまだつた。この年

やうして私は十代の終りの二年を、とても角戦争から放たれて熱心な教授と秀れた友人達との中で生活することが出来たのを偉大なことだと思つてゐる。

近代の日本の歴史の暗い十年、それと私の十代は正に重なり合つてゐる。今日若い日々を生きてゐる諸君に接するとき、わが身にひびいてきたまんなかに、

岩波文庫を一冊買つのに、前の晩から黒いマントを頭からかぶって本屋の店頭になんぞ待たねばならなかつた。そんなにしても本がほしがつた。雑誌『世界』はこんな頃創刊されたのだつた。

x x

休まつた。かかつた。フナをすぐ針からぬいて、出きるだけ油をそめてやつた。

中々、名目屋で

雨の降る日など、

和の時期は初めてだったのである。

空襲と

政務達が次第にヒステリックになつて行つた頃である。

戦局は漸く悪化し、為

十一月に初めて東京が大空襲では、また釣糸をたれた。そしてこれが「平和」といつものそ

湯川佳一郎

国語科

戦争中はつらかつた！

た。戦争は全くな

語は敵性語として

学校正科授業から外されてゐるといふありさまだつた。この年

中學生の一審手つとひ早い聲行は、戦地の將兵に慰問文をかきこくことであり、何がしかの小遣い眼をこす

か、その掛

英雄山本五十六元帥が郷土出身板を踏んで運んだこと、こうしたもので私の中学時代はこめられてゐる。中学五年、私達の勤勞奉仕の場所は、遠く名古屋に移され、仕事は飛行機の生産に變つた。あの神風特攻機の出立だつた。作り上げた飛行機が、隣接の簡単な飛行場から次々と飛びだつて、紺青の空に消えてゆくのをみるのが、その頃の私達の少年らしい喜びだつた。授業は全くなく、ここに英語は敵性語として一年前から中学校正科授業から外されてゐるといふありさまだつた。この年

やうして私は十代の終りの二年を、とても角戦争から放たれて熱心な教授と秀れた友人達との中で生活することが出来たのを偉大なことだと思つてゐる。

近代の日本の歴史の暗い十年、それと私の十代は正に重なり合つてゐる。今日若い日々を生きてゐる諸君に接するとき、わが身にひびいてきたまんなかに、

岩波文庫を一冊買つのに、前の晩から黒いマントを頭からかぶって本屋の店頭になんぞ待たねばならなかつた。そんなにしても本がほしがつた。雑誌『世界』はこんな頃創刊されたのだつた。

x x

休まつた。かかつた。フナをすぐ針からぬいて、出きるだけ油をそめてやつた。

中々、名目屋で

雨の降る日など、

和の時期は初めてだったのである。

空襲と

政務達が次第にヒステリックになつて行つた頃である。

戦局は漸く悪化し、為

十一月に初めて東京が大空襲では、また釣糸をたれた。そしてこれが「平和」といつものそ

湯川佳一郎

国語科

戦争中はつらかつた！

た。戦争は全くな

語は敵性語として

学校正科授業から外されてゐるといふありさまだつた。この年

中學生の一審手つとひ早い聲行は、戦地の將兵に慰問文をかきこくことであり、何がしかの小遣い眼をこす

か、その掛

英雄山本五十六元帥が郷土出身板を踏んで運んだこと、こうしたもので私の中学時代はこめられてゐる。中学五年、私達の勤勞奉仕の場所は、遠く名古屋に移され、仕事は飛行機の生産に變つた。あの神風特攻機の出立だつた。作り上げた飛行機が、隣接の簡単な飛行場から次々と飛びだつて、紺青の空に消えてゆくのをみるのが、その頃の私達の少年らしい喜びだつた。授業は全くなく、ここに英語は敵性語として一年前から中学校正科授業から外されてゐるといふありさまだつた。この年

やうして私は十代の終りの二年を、とても角戦争から放たれて熱心な教授と秀れた友人達との中で生活することが出来たのを偉大なことだと思つてゐる。

近代の日本の歴史の暗い十年、それと私の十代は正に重なり合つてゐる。今日若い日々を生きてゐる諸君に接するとき、わが身にひびいてきたまんなかに、

岩波文庫を一冊買つのに、前の晩から黒いマントを頭からかぶって本屋の店頭になんぞ待たねばならなかつた。そんなにしても本がほしがつた。雑誌『世界』はこんな頃創刊されたのだつた。

x x

竣工式日程発表

頃から 上げした時着せられた目通の印入りのハッピや、その中食の時、日、華 出された大豆入りのニギリ飯、太平洋 ゴウゴウと鳴る船のクレーンの頃は 下で、錨中真黒にして石炭を運ぶ、ひげたこと、四十キロほど、國中 ある豆粕の板を体で調子をとった、船から岸壁に渡された狭い、で記念式典ならびに大音楽会が催される。

当日は朝九時三十分より自由参加の父兄と教職員とで、京都教区長の古屋司教様の司式で洛星会館の祝べつ式がおこなわれ、続いて講堂において創立十週年の記念式典が、来賓、父兄、教職員、生徒によっておこなわれる。そのあと来賓、父兄、教職員は食堂と講堂とで食事をとられてから学校の特別立仕のバスで京都会館に向かわれるが、生徒は各自で自由に行くことになっている。

午後の演奏会は、学校が京都会館を借りきっておこなう。一時三十分までに入場を完了して、同四十五分の校長の挨拶で開会される。出場するのは、オーケストラ、グリークラブ、高校一年生の

トピックス

な 英 類に移った。教授は食料の窮乏
に の中を黙々と懸命に講義した。

▽白井先生めてたくゴール
イン。去る一月十五日、理科の
白井良平先生(中一B担任)は衣
等教会にて、田中桂子さんとめ
でたく式を挙げられた。十二時にお
くそかに御告げの鐘が響き、一時
からの式にはお二人の倅を顧う人
達が列席し、小笠原先生指揮・中
一Bクラスの即席聖歌隊に包まれ
た新郎新婦は、終始喜びをかくし
きれなかったよう。そして同日山
陰へと旅立って行かれた。夢を棄
せて――

▽体育科の中田先生が、胃潰瘍の
手術をされた。中田先生は、一月
三十一日の午後六時ごろから吐血
をはじめられ、至急大学病院で診
察を受けられたところ、胃潰瘍と
判明した。そして、京大外科にお
いて三月一日の午前零時過に手術
をされた。手術の経過は良好との
こと。二月九日に退院されて現在

高校は再開され、私は文科甲
類に移った。教授は食料の窮乏
の中を黙々と懸命に講義した。

トピックス

伯母さんの家で静養中とのこと、
早く回復されることを祈っていよ
う。

H―A優勝
高校サッカー大会

高校生徒会主催のサッカー大会
は、連日の雪とグラウンド・コン
ディションの悪さで、一月二十七
日開始のところ三日遅れて二月三
十日に開始された。

決勝戦はH―Bを延長の末2―
1で振り切ったH―AとH―Bと
の間で二月三日(土)、午後三時
五十分から行なわれた。

試合開始後二十分、H―Aがペ
ナルティー・ゴールを決めます
先制点をあげると二分後H―Bが
ヘッドینگで一点をかえし――
のまます前半終了。

後半開始後十三分、H―Aがゴ
ールを決め追加点をあげたが以後
変化なくH―Aが押し気味のまます
四時四十八分試合終了。

最も死体を一つひとついいねいに安
置した時胸に湧いた気持、そう
いつものは一体どうなるのか、
どうしてこれなのか、と腹が立
った。

× ×

念を強くするのである。

おまに冬のことで、薄暗か
いたで写真うつりが悪く、見にい
たのかも知れません。しんぼつし
下さい。

▼今学期はこの号だけですが、
号は四月早々に出したいと思っ
て努力しておりますが中三生が一
も局の中にないのです。来年は新
発行が困難なようです。中三生
どうぞ入局して下さい。

▼今度新聞局は、高校一階東階
の下（現山岳部室）に移転する
予定です。